



9月号

# 伊藤小だより

令和3年9月1日発行  
品川区立 伊藤小学校  
校長 石出 浩朗

URL <https://school.cts.ne.jp/ito-e>

## 制約の中から

校長 石出 浩朗

長い夏休みが終わり、2学期が始まりました。新型コロナウイルス感染症の勢いは、いまだ衰えず、緊急事態宣言が続いています。学校では、これまで続けてきた感染拡大防止に対する教職員の意識をさらに高めるとともに、新たに学校生活を見直し、密になる状況を減らすことなどの対策を進めていきます。

1学期に実施できず、2学期に延期していたプールでの体育学習については、緊急事態宣言の延長に伴い、残念ながら今年度は実施できなくなりました。また、9月に予定していた6年生の日光移動教室につきましても、中止となりました。児童の心情を察すると、本当に残念で心苦しくなります。

「縮小」や「中止」のお知らせが続く日々がこれほど長引くと心が重くなることを私自身実感しています。しかし、この状況だからこそ、「できること」を探っていくことが必要なのではないかと思っています。「できない」ならば、それと全く同じとはならないけれども、それに近い「できること」を体験させたい。そのような思いは、各担当から示される2学期の活動の提案からも伝わってきます。制約の多い中で、児童が達成感や楽しみを感じられる学校運営を目指していきます。

制約の中での工夫という面では、子どもは大人以上に柔軟な発想があることをこれまでも何度も見てきました。特に時間や空間の制約の中で楽しい遊びを生み出していく力には驚かされます。私自身の遠い過去の思い出にもそれはあります。1000人を超える児童数の学校で仮設校舎も建ち、とても狭い校庭で児童がひしめき合って遊んでいました。その中で5メートル四方ぐらいの校舎の間の場所を使って「バウンド野球」という遊びをしていました。自らの発想ではなく上級生がやっていたのをまねていたのですが、この狭さに適したルールで夢中になって遊んでいたことを今でも鮮明に覚えているのですから、よほど楽しかったに違いありません。下校後も公園や原っぱは子どもであふれていたのも、何とかして楽しもうといろいろな遊びを考えました。厳しい中での切実な問題を何とか解決したいという状況から生まれた発想だったのでしょう。

現在の厳しい状況を歓迎するわけではありませんが、制約の中から子ども達は、新しい楽しい遊びを創り出していかかもしれません。かつての私が、いかに狭い中で密になるかを求めたのとは真逆の、間隔を十分に取りながら楽しめる遊びが生まれてくるかもしれません。遊びだけでなく、学習の中でも、示された条件の中で何ができるかという思考を鍛えるチャンスかもしれません。そのような視点も含めて2学期の教育活動を進めていきたいと思っています。

しかし、第一に願うのは、すべての人の健康であり、この厳しい状況が1日も早く収まることです。

2学期も伊藤小学校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。